

「オバマ・米大統領就任演説」2009年1月20日を読む

アメリカ国民の義務・責任とは

1. (1) 政府ができること、やらなければならないことはあるが、この国が頼りとするのは米国民の信念と決意だ。
(2) 堤防が崩れた時に困っている人を受け入れる優しさ、友人が職を失うくらいなら自分の労働時間を短縮する無私の人、煙に満ちた階段を駆け上がる消防士の勇気。
(3) これらが我々の運命を決める。
2. (1) 我々が立ち向かう挑戦は新しい。
(2) それに立ち向かう手段も新しい。
(3) しかし、我々の成功のカギを握る価値観は古い。
(4) それは労働、勇気、公正さ、寛容さ、好奇心、忠誠心、愛国心などだ。
(5) これらは我々の歴史を通じて前進の静かな原動力となってきた。
3. (1) いま求められているのはこうした真実に立ち戻ることだ。
(2) 求められているのは新しい責任の時代だ。米国民の一人ひとりが個人、国家、世界に対して義務を負うという認識だ。
(3) いやいや請け負う義務ではなく、喜んでつかむ義務だ。
(4) 難しい課題に全力で向かうことほど、精神を満たし、我々らしいことはないからだ。
4. (1) これが米市民としての代価であり、約束である。
(2) それは我々の自信の源泉でもある。

[コメント]

オバマ・米国新大統領のこの就任演説ほど、経済危機の世界で政治家として力強い決意表明はない。この世界的な経済危機を乗り切る主役は米国大統領であると同時に、全アメリカ国民であることを訴えているからである。

我々日本に住む一人ひとりの人間も、その責任の一端を果たすことが義務と考える。

- 2009年1月22日林明夫記 -